

栗原市



獅子舞樂所御

きたごうこぬかつか

栗原市志波姫北郷小糠塚にある八坂神社は、江戸時代中期に現在の志波姫地区に住んでいた清和庄蔵が、伊勢参宮の帰路に京都に立ち寄り、祇園の八坂神社から分霊して現在地に勧請したものとされています。

ごしょうくししまい

御所楽獅子舞は、八坂神社の祭典（旧6月15日）に古くから奉納されている伝統芸能です。4曲からなるお囃子に合わせ、道化面をつけた獅子あやし1人の所作によって、2人立ちの獅子が巧妙で滑稽な舞を舞いながらご神体の先走りをします。はじまりの御所楽囃子は法螺貝を吹きながら悪魔を

ごこくほうしょう

払い、道を清め神を通して五穀豊穰、商売繁盛、悪疫退散、福德円満、家内安全を祈り舞います。獅子しこ巧ろう囃ばやし子は身体堅固、無病息災を祈るもの、中の囃子は子孫繁栄、罪けがれなきように舞い、外の囃子は火難、盗難が起こらぬように舞うと言い伝えられています。

